

10～12月の催し・教室スケジュール

▼企画展・イベントなど

- 10月1日(金)～11月28日(日)／
紡がれた時を纏う、まきのまきのレター ephemeral forest
- 10月9日(土)・10日(日)／お山でシネマ
- 10月23日(土)～11月21日(日)／秋のガーデンツアー
※期間中の土日
- 11月20日(土)・21日(日)／よるまきの「ホシフルこんこん山」
- 11月26日(金)～28日(日)／寒蘭展
- 12月3日(金)～5日(日)／サボテンと多肉植物展
- 12月18日(土)～2月27日(日)／牧野コレクション
植物図の世界～サクラ篇～

▼教室

- 10月3日(日)／ハーブの教室
- 10月17日(日)／子ども自然体験教室
見ごろの植物ガイドウォーク
- 11月6日(土)／くらしの植物教室
- 11月14日(日)／子ども自然体験教室
- 11月27日(土)／カンラン栽培教室
- 12月4日(土)／押花教室
- 12月12日(日)／ハーブの教室
- 12月19日(日)／見ごろの植物ガイドウォーク
- 毎週第2水曜日・第4日曜日 10:00～／草花を描く
- 毎週第2水曜日・第4日曜日 13:30～／ふれあい植物観察会
※12月第4日曜日は休止

【教室・イベントの申込方法】

当園ホームページのイベント・植物教室ページ、またはFaxからお申込みください。入園窓口でも直接お申込みいただけます。

- 申込先 ホームページwww.makino.or.jp Fax088-882-8635
- 申込開始日 開催前月の第1水曜日 9:00～(先着受付順)

▼マキノ・ボタニカルクラブ

- 10月9日(土)／横倉山ワンダーランド!
【会場】越知町立横倉山自然の森博物館
- 11月6日(土)／不思議な不思議なシダの世界へ
【会場】安芸市伊尾木洞
- 11月20日(土)／どんぐり標本箱をつくろう!
【会場】モンベル アウトドアヴィレッジ本山

【マキノ・ボタニカルクラブ申込方法】

当園ホームページのイベントの植物教室ページからお申込みください。※電話・FAX・入園窓口、および各会場での申込受付は行っていません。

- 申込先 ホームページwww.makino.or.jp
- 申込開始日 開催前月の第2水曜日 9:00～(先着受付順)

※10月開催分の催し・教室については、申込開始日が変更となっています。
※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今後、企画展・イベント・教室などの日程や内容が変更または中止になる場合があります。最新情報はホームページなどでお知らせしますのでご確認ください。

Information

工事のお知らせ

資源植物研究センターの解体開始

南園では新研究棟の建設に向け、6月10日(木)から資源植物研究センターの内装撤去にとりかかり、7月19日(月)からは大型重機を使ったコンクリート骨組みの解体がはじまりました。園地のそばで行う解体のため、安全のために少しずつ重機で崩しながら工事を進めています。9月の中旬には、地上部分の解体が完了し、その後地下部分の解体を行い、10月の中旬には更地となる予定です。

Restaurant information

レストランからのお知らせ

カフェ&レストランArbre

しっとり、コクのある秋のデザートを園内散策のあとにいかがでしょう。コーヒーとの相性もぴったりです。プチデザートセットのさつまいものプリンも展示館カフェ限定で登場。



ティラミス 420円(手前)
かぼちゃのプリン 360円(奥)

観光バス「MY遊バス」のご案内

- JR高知駅から牧野植物園までMY遊バスで約30分。
- MY遊バス乗車券を牧野植物園の窓口で提示すると、入園料が100円引きとなります。
- 料金／[五台山一日券](高知駅→五台山)
大人(中学生以上)600円 子ども(小学生)300円
- MY遊バスに関するお問い合わせ
運行について／とさでん交通(株)TEL 0570-088-103
乗車券について／(公財)高知県観光コンベンション協会TEL 088-823-1434

高知県立牧野植物園ご利用案内

[開園時間]9:00～17:00 [休園日]年末年始(12/27～1/1)
[メンテナンス休園日]9/27、11/29、R4/1/31
[入園料]一般730円(高校生以下無料)
団体630円(20名以上)、年間入園券2,930円

※身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳所持者と介護者1名および高知市・高知県長寿手帳所持者は無料

[交通案内]

はりまや橋から車で約20分。
高知自動車道「高知IC」から一般道で約20分。
高知自動車道「高知JCT」経由、東部自動車道「高知南IC」から約15分。
高知龍馬空港から東部自動車道経由で約25分。
駐車場無料(普通車183台、バス8台)。
※道路案内板の「五台山」または「牧野植物園」「竹林寺」を目指してお越しください。

高知県立牧野植物園 友の会 会員募集

[特典]※会員ご本人様の特典です。

- ①窓口で会員カードを提示していただくと、入園料無料。
- ②「牧野植物園だより」(年4回発行)や、催し物案内を定期郵送します。
- ③牧野植物園が主催するイベントや教室に会員価格で参加できます。
- ④レストラン、ショップ利用時にカード提示で、5%の割引が受けられます(カフェでは適用されません)。

[会費]普通会员/年額 4,000円 賛助会員/年額10,000円

[入会のお申し込み・お問い合わせ] 088-882-2601 友の会担当まで



牧野植物園ロゴマーク:バイカオウレンの葉

バイカオウレンは、高知では春一番を告げる花として、牧野富太郎博士が特に好んだといわれています。早春に小さな白い花を咲かせるこの植物は、晩年東京で暮らした牧野博士にとって故郷を思わせる懐かしい花でした。

高知県立牧野植物園だより No.87 令和3(2021)年9月8日発行

[編集・発行]公益財団法人 高知県牧野記念財団
〒781-8125 高知市五台山4200-6 高知県立牧野植物園
Tel 088-882-2601 Fax 088-882-8635

[印刷]有限会社 西村騰写堂

www.makino.or.jp



高知県立 牧野植物園だより



ヤナギノギク [キク科]

Aster hispidus Thunb. var.
leptocladus (Makino) Okuyama

高知、愛知および静岡県の蛇紋岩地にのみ分布する多年生草本。茎が赤紫色を帯び、枝が斜上し、葉が線形となる。頭花は径約3cmで、10～11月に咲く。牧野富太郎博士が明治25、26(1892、1893)年に一宮村(現高知県高知市一宮)で採集した標本にもつぎ命名した。現在はヤマジノギクの変種とされる。

News 新設デジタルガイド紹介

花が咲いていない時期でも、ガイドを使って花の写真を紹介

スマホを使ったデジタルガイドがはじまります

植物園のディープな魅力を発見!



現在地やおすすめスポットを表示するマップ機能

この秋から、お手持ちのスマートフォンやタブレットで利用できる「まきのQRガイド」がはじまります。専用アプリのダウンロードは不要で、QRコードを読み込むだけで、お手持ちの端末が簡単にデジタルガイドに早変わりします。このガイドでは、代表的な9つのエリア、牧野富太郎博士の業績を学べる常設展示室、牧野博士ゆかりの植物や当園で人気の植物25種類を紹介しており、解説は順次増やす予定です。この



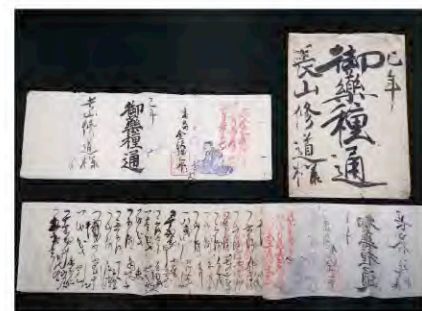
ガイドを使えば、来園したときに花が咲いていなくても、写真で花をご覧いただけます。特に、注目していただきたいのはマップ機能です。現在地やおすすめスポット、施設案内などが表示され、現在地を見ながら近くのおすすめスポットを探したり、フォトギャラリーからその植物の場所を表示させる機能があります。山あり谷ありの南園や結網山の小径も網羅しているため、園地の隅から隅まで探索できます。海外の方にも楽しんでいただけるよう、多言語機能があり、英語、繁体字中国語、簡体字中国語、韓国語に対応し、各言語による解説の読み上げ機能もあります。ご来園いただいた際には、ぜひ「まきのQRガイド」を活用して新たな植物園の魅力を発見してください。(百田みのり)

News 書籍寄贈

地域の医療や民俗文化を知る古医書の寄贈

貴重資料の新たなコレクション

栲原病院(高知県高岡郡栲原町)の医師吉富誠氏を介して、栲原町四万川で幕末から明治にかけて活躍した村医者「長山修道」の蔵書資料95点を長山家より寄贈いただきました。ドラマや小説では江戸時代の町医者の活躍が描かれていますが、高知県の山間部では地域医療はどのようなかたちであったのか、知る手がかりとなる貴重な資料です。



取引した生薬の内容がわかる生薬納入書「御薬種通」

幕末から明治時代にかけては医療が一般化し、医学が大きく変貌していった時代。旧四万川村本も谷には、医師が2軒

「華岡青洲流外科絵巻物」と考えられる彩色図



開業していた記録が残されています。そのうちの一人が「長山修道」で、その蔵書には、漢方と蘭方・洋方医学書が含まれていました。漢方蔵書は日常診療に役立つ本、蘭方医学書には手術器具など外科関連の本が、また明治以降の医書には、日本薬局方の解説書や臨床に役立つ西洋医学の実用書がありました。このことから、多角的な視点と多様な知識を持ち、幅広い分野の医療を担っていたと考えられます。

これら寄贈いただいた蔵書資料は、整理・適正管理し、貴重な地域資料のコレクションとして活用していきたいと考えております。なお、本稿をまとめるにあたり、吉富誠氏による講演会「四万川の漢方医長山修道」(令和3年5月21日開催)を参照しました。

(藤川和美)

Information 研究内容紹介

新研究棟完成に向けて 薬用植物研究のさらなる発展を目指す

令和5(2023)年、南園の植物資源研究センターを建て替えた新しい研究棟がオープンする予定です。子どもたちや研究機関との関わりが期待できるキッズラボやジョイントラボを設置するなど、来園者と植物研究との距離がずっと近く感じられるようになります。今後さらなる薬用植物研究の発展を目指す当園に、この春、2名の研究員が加わりました。着任から半年ほどになる今、これまでの取り組みをもとにした今後の展望について考えを聞きました。

■植物研究課 研究員 末岡昭宣

大学を卒業後、民間企業数社で植物を扱う仕事に携わってきました。これまで切り花、ハーブ、薬用植物などの組織培養、種苗生産、育種、栽培や販売に従事したほか、前職では、漢方薬や化粧品に使用する薬用植物の自社原料化を目指し、栽培が困難と考えられていたカンゾウやムラサキなど20種類余りの薬用植物について栽培と産地化を進めました。種苗生産方法および収穫量や成分含量の増加技術、栽培に適した優良系統の選抜など、原料化に向けた一連の課題解決に向けて取り組み、幾つかの品目について原料化に成功しました。



試験栽培の準備

■植物研究課 研究員 白河潤一

私はこれまで植物の染色体やDNAといった細胞の中にある小さな特徴にもとづき、その植物がどのようにして生まれ、分布を広げてきたのかを調べる研究を行ってきました。さらに、食品学や医学に関する研究も行っており、前職では糖尿病や動脈硬化といったような生活習慣病に関する研究に従事していました。現代において、多くの人々の健康寿命を短くしている生活習慣病ですが、じつは病気の起こる原因やどのように病気が進行していくのかなどについては、まだまだ解明されていないことがたくさんあります。そんな生活習慣病のメカニズムを、分析装置を使って調べ、将来の予防や改善に役立てることを目指した研究を行ってきました。

現在、高知県をはじめとする日本に自生している植物から、薬用としての利用や機能性が期待できるような、人々の健康に役立つ植物を探し出す資源探索研究を進めています。そのために、日本国内の植物を多く集め、花や葉、茎、根などの部位ごとにエキスを抽出しています。そして今後は、抽出したたくさんの植物エキスの中か

新研究棟完成予想図



の薬用植物について栽培が行われています。そこで、これまでの経験を活かし、牧野植物園では高知県における薬用植物栽培のさらなる普及を目指し活動を行っていきます。それには高知県に適した栽培品目の選定、新たな技術開発、栽培に適した品種の選抜などを進める必要があります。そして、最も重要なのは生産したものをきちんと販売できる仕組みです。当然ながら求める品質をクリアすることが前提となります。良いものをつくればそれに見合う対価が得られるという仕組みは、生産者が安心して栽培に取り組めることに繋がります。決して簡単なことではありませんが、実現に向けて関係者と共により一丸となって取り組んでいきます。

また、薬用植物に親しんでいただけるよう、園内薬用植物区の見せ方を工夫したり、ハーブや薬用植物を利用したワークショップを行い、皆さまと一緒に楽しめる時間をつくっていきたく考えています。

ら、酵素や細胞を使った実験によって、目的とする効果を持つ植物と部位を選び出すスクリーニングという工程を進めていきます。植物と部位が特定できれば、その植物にどのような成分が含まれているのか、どのように効いてい



植物エキス調製の様子

るのかなどを知ることにも可能になります。特に今の日本では、高齢化や肥満の増加に伴う生活習慣病になる人の増加、新感染症の蔓延などの問題が起きているので、アンチエイジングや代謝異常の改善、抗炎症効果を持つ植物を探し出すことを目指して研究を行っていきます。

Report ふむふむ広場活動報告

“あの野菜”ってどんな植物？ 意外と知らない野菜の成長

身近な植物について楽しく学ぼう

ふだん食べている野菜や果物。食材としての姿は知っていても、植物としてどのように成長するのか知っていますか？ふむふむ広場は、意外と知らない身近な植物について、興味を持ってもらうことを目的とした広場です。



牧野博士とふむふむ探検隊

今年の春、ふむふむ広場の一角に、高知では“りゅうきゅう”とよばれ食卓に上るハスイモを植栽し、夏休みごろには子どもの背丈ほどになりました。学習プログラムのクイズの設問の一つとなり、挑戦した子どもたちから、給食にも出てくるハスイモが「あんなに



ハスイモの葉(左)と花

大きいものだと知らなかった」と新たな発見に驚きの声が上がりました。

10月には土佐の畑の植え替えを行います。現在3つの畑に植栽しているトウモロコシ、トウガラシ、オクラに代わり、アブラナ科の野菜、マメ科の野菜、麦と総称されるコムギやオオムギなどの植栽を予定しており、来年初夏まで成長のようすを観察できます。

また、植物の解説パネルを順次リニューアル中で、秋にはふむふむ広場のイメージキャラクター「ふむふむ探検隊」が新登場し、牧野博士とともに植物について楽しくわかりやすく紹介します。今後も「ふむふむ」とうなぎ学べる園地としてさらなる充実のため取り組んでいきます。

(岡林未悠)

Report 夏の催し開催報告

親子で楽しく学ぶ恒例の 「夏のイベント」が終了

植物の不思議な仕組みに驚きの声続々

7～8月の夏休みシーズンにあわせ、今年も当園ではさまざまな催しを開催しました。お子さまを中心に毎年大人気の「食虫植物展」では、ハエトリグサやネペンテスの仲間などを一堂に集め、虫の捕らえ方の違いなどを紹介したほか、今年は1円玉よりも小さいモウセンゴケの仲間を多数展示しました。来園者からは「本当にこんな小さな植物が虫をつかまえているの？」と驚きの声が上がっていました。



「食虫植物のふしぎ体験」の様子

昨年は中止となった「オオオニバスのろう!」は、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じ、事前予約制で実施。怖がって泣

オオオニバスの浮力を体験



き出してしまってお子さまも多くいましたが、ほとんどの参加者が無事葉に乗ることができ、会場には笑顔と泣き声があふれていました。

日中では見ることができない夜咲きの植物が楽しめることで人気の「夜の植物園」は、昨年に続き本館から温室までを一方通行で巡るかたちで開催しました。夜間でははじめてふむふむ広場や展示館シアターをご覧いただきながら、マツヨイグサの仲間やサガリバナなど夜に開花したり香りを放つ植物の仕組みを解説しました。

それぞれのイベントを通じて、これまで知らなかった植物の不思議な生態に気付き、新たな魅力に触れていただくことができましたのではないかと思います。

(橋本渉)

News 駐日チェコ共和国大使ご来園

7月9日(金)、東京オリンピックのチェコ選手団の事前合宿を引き受けた高知県、高知市と須崎市へ受け入れのお礼と挨拶のために来高されたマルチン・トムチョ駐日大使が、当園へ視察のため来園されました。

まず、園地を見学され、ふむふむ広場の「土佐の畑」では、日本の食卓によく登場するごぼうの花を、また、回廊沿いに植栽する牧野博士ゆかりの植物ビロードムラサキやバイカオウレンの群生を觀賞いただきました。

研究施設の標本庫では、世界各国の標本を収集する標本コレクションに興味を持たれ、ご自身が幼少のころに押し葉標本をつくれた思い出やエピソードなどをお話してくださいました。

後日、有意義な訪問となったという内容のお手紙を頂戴しました。今回のご来高を機に、高知県とチェコ共和国のさらなる友好の輪が広がればと思います。

(濱口宗弘)



当園 本館ウッドデッキにて、マルチン・トムチョ駐日大使(右)と川原園長

News 2022年カレンダー
「牧野富太郎 植物図12ヶ月」発売

牧野博士の植物図を使った、令和4(2022)年のカレンダーが完成しました。来年迎える博士の生誕160年を記念する、当園のオリジナルカレンダーです。

牧野文庫で所蔵する博士の植物図約1,700点の中から、ムジナモやヤッコソウなど、各月にふさわしい植物図を専門員が厳選し、それぞれの植物解説を掲載しています。表紙には『大日本植物志』全16図版中、唯一の彩色図ホテイランを採用し、すべての植物図をオリジナルと照らし合わせ色合いを



nonocaオンラインショップでも購入できます

できるだけ忠実に再現しました。

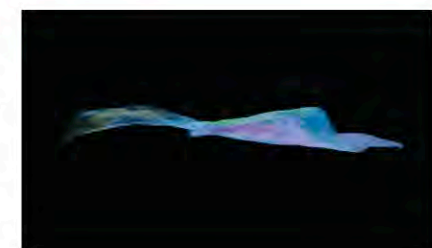
博士の描いた植物図は正確、精緻、かつ美しさを兼ね備えています。毎月ページをめくってお楽しみください。

このカレンダーは、園内のボタニカルショップnonoca、金高堂(一部店舗を除く)、高知蔦屋書店で販売中です。数量限定ですので、ご希望の方はぜひお早目に。

(楠山壽香)

Info 紡がれた時を纏う、まきのまきのレター ephemeral forest

本誌82号で紹介させていただいた、牧野富太郎博士が植物を愛し学び続けたその姿を、アート絵本として登場させた『まきのまきのレター』。来る令和3(2021)年10月1日(金)～11月28日(日)に、当園にて、その絵本を投影した世界一薄い和紙「土佐典具帖紙」が、かげろうのように舞うインスタレーションを行います。浮遊する和紙(写真)と、楮を原料とした紙布の壁に包まれた会場には、和紙の森のような空間が現れます。



『まきのまきのレター』は、浜田兄弟和紙製作所(吾川郡いの町)による土佐典具帖紙に、世界ではじめて弘文印刷株式会社(高知市)が印刷を施した特装版も出版されており、その原画も数点展示されます。主催者のまきのまきのレター実行委員会代表池田健氏は、「牧野博士がどこかにいるような立体的な空間で、高知県の和紙の素晴らしさ、牧野博士の業績に思いを馳せ、体感していただける企画展です」と見どころを紹介してくれました。どうぞご期待ください。

(小松加枝)

Report レストランとショップ
食虫植物展とコラボレーション

この夏、ご来園の皆さまに「食虫植物展」開催中の牧野植物園を満喫していただく、園内のレストランとショップで



夏マキノジュレ(左)、咲くやこの花館コーナー

食虫植物をモチーフにしたメニューやグッズをご用意しました。

レストランアルブルでは、展示担当者が開発に参加した「夏マキノランチ」と「夏マキノジュレ」が登場(8月31日まで)。鮮やかな色彩はまるでハエトリグサ(!)で、どちらも発売するなり人気メニューに。

また、園内のボタニカルショップnonocaでは咲くやこの花館(大阪府鶴見区)とコラボレーションし、ウツボカズラ柄の手拭いやマスクケースなど咲くやこの花館のオリジナルグッズがずらりと揃うコーナーを設けご好評をいただきました。咲くやこの花館でも牧野博士の植物図をモチーフにしたグッズが並ぶ牧野植物園コーナーが9月末まで登場しています。

これからもレストランやショップはもちろん、全国の植物園と連携しながら皆さまに植物園ならではの体験をお届けしたいと思います。

(楠山壽香)

見ごろの
花だより

Vol.38
Flowers in season

プテロスティリスの仲間

[ラン科]

Pterostylis ssp.

オーストラリアと周辺の島々には、降水量の少ない季節を地中で休眠し、雨期になると地上に芽を出し、花を咲かせるという生活を繰り返す植物が多く分布しています。プテロスティリス属もそのような生活をする地生ランの仲間です。花の背中側のがく片と花弁がくっついた兜状の花をつけることから、頭巾ランやヘルメットオーキッドとよばれています。

この属の花には、虫に上手に花粉を運んでもらうための仕組みがあります。花弁の白色に見える筋は半透明になっており、明かり取りの役割を果たし、花の中へ虫を誘います。その中に誘導された虫が唇弁に触れることで、その唇弁が瞬時に跳ね上がり、中の筒状の空間に虫を閉じ込めます。虫は脱出しようと動き回り、唯一の出口である唇弁とずい柱の隙間に辿りつき脱出します。脱出の際、ずい柱の窪みにある花粉の塊が虫の背中に引っかかります。それを背負った虫がほかの花に移動することで、受粉が成立する仕組みです。

当園では、秋から冬にかけて開花するプテロスティリス・オフィオグロッサを中心に温室の展示スペースで紹介しています。ヘルメットのようなユーモラスな姿をお楽しみいただき、受粉のために巧みな進化を遂げた背景に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。(片岡奈々)

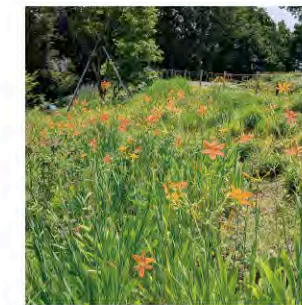


群れて咲くプテロスティリス・オフィオグロッサ

園地のできごと

Vol.38
The gardening
section's news

こんこん山広場に 爽やかな草原を



草原エリアのヒオウギ

平成31(2019)年の春にオープン以来、植栽の拡充を進めているこんこん山広場の「草原エリア」。美しい草原の景観を目指し、高知県のススキ草原などでよく観察される草原植物19種類を植栽しています。植栽から約2年が経過し、すべての植栽植物が見ごたえある開花株に成長し、今年は6月のハンカインソウからはじまり、最後は11月のヤマハツカまで絶え間なく花をご観賞いただける予定です。

これら草原植物の多くは、かつては日本各地の野山で普通に生えていました。近年は里山の管理放棄などによって草地が樹林に戻っており、生息地が減少傾向にあります。

このエリアにはカワミドリやホソバヒメトラノオ、コバナノワレモコウなど、高知県の絶滅危惧種も植栽しており、生息域外保全※をしています。多くの方に風景と一体になったこれらの植物の魅力を感じていただける場所になることを目指しています。

今後も草原植物の充実を図り、草原を身近に観察できる観察路の整備を計画中です。お楽しみに!
(白土晃一)

※絶滅危惧種をまもるため、もともと生息・生育していたところではなく、植物園・動物園などの施設で生きものを保護して、それらを増やすこと。

植物の
「なぜ?」

Vol.38
Plants' Q and A

Q | 体に良いといわれるヨモギが、
花粉症の原因になるのはなぜですか?

A | 花粉を運ぶのに風を使うからです。

ヨモギは道路横や空き地などによく見られる植物で、爽やかな香りがあり、昔から食品や薬用に利用されてきました。春に草餅をつくって食べたことのある人も多いかと思いますが、また、お茶やお風呂に入れたり、葉の裏側の毛(毛茸や腺毛)は艾としてお灸に使ったりもします。そのほか、最近では炎症や糖化を抑える効果や脂質代謝の改善効果も報告され、石鹸や化粧品、健康食品にも使われているので、体に良い植物の代表というイメージが強いでしょう。

ところが、秋になると一転して花粉症の原因になるネガティブなイメージの植物として話題に上ります。ヨモギは、コスモスやヒマワリなどと同じキク科の植物ですが、とても地味な花をしているためヨモギの花が咲いている姿を思い出せる人は少ないかもしれません。

じつはヨモギの花はキク科の中では珍しく、昆虫や鳥に花粉を運んでもらうことをやめて花粉を風に乗せて飛ばすことを選んだ風媒花なのです。花粉を運ぶ生きものの気を引く必要がないこ

とから、花弁も小さく、花粉を大量に飛ばすことで受粉を行います。そのため、空気中に漂った花粉がスギやヒノキなどと同じようにアレルギー反応を発症する原因となってしまうのです。人間からすると厄介な受粉の方法ですが、昆虫の少ない乾燥した草原で生育するヨモギの仲間が生き残るためには、ほかの生きものに頼った方法よりもこちらの方が確実だったのでしょう。

ちなみにヨモギの花粉にアレルギーを持つ人は、キク科の植物以外にもニンジンやセロリなどのセリ科の植物やウリ科のスイカやメロンなどにも反応して口の中や喉に炎症を起こしてしまうことがあります。これらの食品を食べる際(特に生食)は、十分にご注意ください。

(白河潤一)



ヨモギの蕾

身近な植物を
知る

Vol.41
Plants close to us

リンドウ

[リンドウ科]

Gentiana scabra Bunge var.
buergeri (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.

陽の当たる秋の山野を歩くと、足元に釣鐘型の花を咲かせたリンドウを見ることができます。霜で植物が枯れ景色から色が失われていく中、鮮やかな青紫の花は人目を惹きます。『枕草子』や『古今和歌集』にもリンドウが出てくることから、昔から人々に愛されてきたことがうかがえます。リンドウの花は青から青紫の寒色のイメージがありますが、改良された園芸品種には白やピンク系などの色があり、鉢花や切り花としても人気です。

リンドウの母種で、中国に分布するトウリンドウの根および根茎を乾燥させたものは、生薬名を「竜胆」とよびます。これは、根が胆汁のように強烈に苦いことにより、センブリやゲンチアナなどリンドウの仲間は共通して味が苦いことから世界各地で苦味健胃薬として利用されています。生薬「竜胆」が処方される竜胆瀉肝湯や立后散などの漢方薬は、筋肉の腫れや歯の痛みを取るのに用いられます。

(松野倫代)



リンドウの花

Staff's recommendation

スタッフに聞く!
植物園の見どころ Vol.41

教育普及推進課
内村直也のおすすめ

牧野博士が 学名をつけた植物

明治22(1889)年、日本ではじめて国内の学術誌に学名を発表した「ヤマトグサ」をはじめ、牧野博士が発表した学名は1,500種類を数えます。野生植物だけでなく野菜や花卉なども含まれ、私たちの身近にある植物すべてが牧野博士の研究対象となっていました。

ところで、植物の分類体系は、19世紀から盛んに議論され、ドイツのエングラマーが1900年ごろに提唱した分類体系が日本でよく使われてきました。そのほか、アメリカのクロンキストが1980年代に提唱した分類体系があります。現在は1990年代から提唱されているAPG分類体系が主流になっています。当園でも、新しいAPG分類体系に基づき、園内の解説ラベルを順次、移行している段階です。

牧野富太郎記念館 展示館の入口には、牧野博士のつけた学名植物298種のリストを展示しています。その植物を園内で探索しラベル確認することで、進んでゆく植物の分類体系と、多くの植物に名前をつけた牧野博士の研究にける情熱とその凄さを身近に感じていただければ幸いです。

※APG: Angiosperm Phylogeny Group という研究者グループの略

